

議会報告会報告書

開催日時	令和5年11月8日（水）午後7時00分～午後8時34分		
開催場所	三雲・天白公民館（三雲地域振興局2階 研修室1）		
委員会名	文教経済委員会		
出席議員	市野幸男委員長 橘 大介副委員長 野呂一平 吉川篤博 赤塚かおり 西口真理 山本芳敬		
	司会進行者	橘 大介副委員長	
	報告者	(第1部) 赤塚かおり (第2部) 野呂一平	
	記録者	吉川篤博	
参加人数	第1部 18名 第2部 18名		
第2部形式	ワークショップ形式（グループ3班）		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		
委員長の所感	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 坂口秀夫 様

令和5年11月16日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

文教経済委員会

委員長 市野 幸男

第1部用

【主な質疑応答・意見等】

問 肥料高騰下支え事業補助金について、JAで周知したということだが理解していない。どういう風にアピールされたか。また、周知徹底していないから、このように決算額が少ない。この辺の詳細、どのように取り組まれたか教えてほしい。

答 肥料高騰下支え事業について、肥料や燃油が高騰して農家が大変だということで、市が肥料の値上がり分の7、5%を補助しようとするもので、報告にもあったが、予算額4,600万円に対し決算額が790万円ほどで、開きが大きく、申請数・補助金も少なかった。決算の分科会でもこのことを問題にした。

市から、「肥料や燃料価格の高騰率が当初の見込額より低かったこと、国・県の化学肥料使用低減の取組などで肥料や燃料の購入量が減ったことによる」との答弁があった。申請数が少ないのは、明らかに広報に問題があった。市としては、市広報やホームページで掲載を行ったり、JAなどが主催する会議での説明やチラシ配布を行ったりと言っていたが、手続きから広報まで、JAに委託していたため、市のチェックが十分でなかった。委員会としては厳しく意見したので、今後はこのようなことがないように改善していただけるものと思う。

問 不登校・いじめ、スーパーバイザー・支援員の配置を行っていたり、令和3年に始まったコミュニティスクールで、地域と学校の取り組みが行われているが、検証が全く行われていない。松阪市は、こういうことを一つ一つ検証しながら前に進めていくと言われているが、どうなっているか教育の方から全く説明がない。どういうふうにして行うのか、市に対して検証するよう議会の方からも言っていたきたい。

答 コミュニティスクールの検証が行われているかということであるが、市から検証しているということは聞いていない現状である。

実際の所、各学校によってそれぞれ取り組んでいることが違うため、当初はコミュニティスクールで予算が配分されていたが、今は「特色ある学校づくり」の中で予算化され、コミュニティスクールを運営している。コミュニティスクールの方から市に検証報告はしているが、市からの話は皆無に近い。今後、市に申ししていきたい。

いじめ・不登校については、「いきいき学校プロジェクト」の中で、学校経営スーパーバイザーやコネクトサポーターを配置し取り組んでいる。学校の教職員も関わりながら取り組んできているので、学校に戻る率は全校区平均よりも高い数値が見られている。

問 「松阪牛」はあるが、観光の部分が目に見えてこない。具体的に見える活動やマップづくりをしておられるが、何か目玉の取り組みが必要。松坂城を中心とした史跡や殿町の陣屋跡など、もっと観光客誘致について考えるよう住民の意見を上げていただきたい。

答 「飯高の香肌イレブン」「松阪牛祭り」などは取り組んでいるが、今後目新しい物として、「松坂城ライトアップやドローンショー」を更にブラッシュアップして取り組んでいくと聞いているため、議会としても見守っていきたい。

第2部用

【テーマ：こどもの居場所づくり】

【開催形式】

ワークショップ形式（3班）

【意見等】（Aグループ）

- ・居場所づくりはどこかという結論は出なかったが、色々な意見は出た。
- ・まずは遊べる場所が必要。カードゲームやゲームのできる場所があれば、子どもたちは自然と集まってくる。
- ・居場所が少ない原因の一つに学校の統廃合がある。学校から遠い子はスクールバス等で登下校するから、近い子と遊ぶ機会が少なくなる。
- ・安全で安心な場所がほしい。
- ・ハートフル三雲を利用して、子どもたちを遊ばせてほしい。しかし交通の便が悪いため利用しにくい。
- ・子どものニーズが多様化しているので、ここという居場所が決められなかった。

【意見等】（Bグループ）

- ・一番は不登校になっている子の意見を聞かないと、何で学校に行かないのか十人十色なので、そこを分けて精査して支援していかないといけない。

学校の先生だけでは大変なので、子どもを一同に集めて意見を聞くプロジェクトがあってもいいのではないか。そこで自分の意見が聞いてもらえたと言うことで、子どもたちの気持ちの一助になるのではないか。

- ・今の時代、いつでも授業がオンデマンドで見られるようにすると、見られる時間に親子で見えることもできる。また、それが出席扱いになれば、なお良い。すべての学校が配信しなくても、各学年の授業を一時間ごとに録画すれば、配信で市内すべての学校の児童が見ることができる。
- ・発達障害やいろんな子がいるので、医療機関との連携が必要である。
- ・家庭では親の考えがいろいろあるので、親の教育やサポートも必要である。時には間違っているよと言うコミュニケーションも必要である。
- ・家庭との連携の中で、訪問カウンセリングも有効な手段である。
- ・行政への要望であるが、何処に作ればと言うことだが、学童や、地域の農作業に手伝いであるとか、まずは外に出ると言うことで、地域に受け皿を作ってもらいと良いが、作ってもそこにどうやって行くかという問題があるので、地域と家庭を繋ぐコーディネーターの育成も必要になってくる。
- ・不登校数に対して、コネクトサポーターが10人では少なすぎる。さらに増員が必要である。
- ・不登校にカウントされない子への支援も必要である。訪問カウンセリングや、総合的に子どもたちをサポートしていく必要がある。

【意見等】（Cグループ）

- ・三雲地区は公園が少なく、学童以外の居場所が大切である。また、昼食、特に長期休業中の昼食が心配である。学童では、見守りも大切であるが、宿題や読書・感想文もやってほしい。屋内で自由にいられる居場所が少ない。
- ・課題は、地域には公園が少なく、遊びに行ける公園が遠い。夏休み昼食がない。見てくれる大人が少ない。子どもたちが自ら行ける場所がないので、送迎ができないと利用できない。タブレットの中身は進んでいくが、一度立ち止まって検証をしないといけない。
- ・子どもたちがふらっと行けて、ふらっと帰れるような場所があると良い。子どもが主体となる場所を作っていくにはどうしたら良いかと考えると、今日のように大人が集まって考える機会を作る。
- ・土曜日の朝に集まれる場所があると良い。

委員長所感

- 第一部では全体的に事業（特に補助金関係）に対する周知徹底がなされていないと指摘が多く感じられ、やはり事業の周知が行き届かないと市民サービスを受けられず不満感が残る。また、地域と学校との連携でコミュニティスクール等が進んでいるが行政からの検証や、報告等が全く聞こえてこなく一方通行ではダメと言う指摘、まさにその通りだと感じる場所である。
 - 第二部においては【こどもの居場所づくり】というテーマであり、様々な意見が出され関心の大きさを感じた。こどもを育て見守るということについてはそれぞれの立場で思うところが多様にあることを感じ、やはり重要ポイントであり松阪市として最重要項目であることを忘れてはならない。昔のこども達はもっと地域で自然に見守っていたが、現在においては生活環境の様変わり新しい見守り方を考えなければいけなくなり、その一つが居場所づくりだと感じた。やはり地域との連携が必要なのは当然のことである。
 - 今回の文教経済委員会の議会報告会は、第一部より活発な質疑があり第二部についても時間が足りない程にワークショップ形式での意見交換がなされ、非常に有意義な報告会であった。今回は地域の方に参加していただく為、会場となる三雲管内の学校6校に案内チラシを配布し、また各委員がチラシ配布等で周知を行ったことにより幅広い年齢層の参加者があった。しかしながら、まだまだ十分な参加人数とは言えず、市民の市議会への関心度の低さは感じる。今後、議会報告会のあり方や方法をさらに再考する必要があり、議会として市民が参加しやすく見える議会にすることが必要不可欠だと感じた。
-

議会報告会の様子

